連載73 在宅医療奮闘記

平成7年より在宅を開始した私の思い出

（医）東西会 千舟町クリニック院長
橋本 満義（65歳・内科）

配偶者（つれあい）の目に、キラッと光る涙

いつの世にも、どのような業界の偉人であっても、アルコール依存症という病により、全ての地位や業績を一瞬のうちに失うことがあります。前夜の深酒で、朝方交通事故を起こしてしまい、全ての免許が取り消しとなった医師や、長年の深酒がたたりアルコール性肝硬変症、腹水貯瘤（ちょりゅう）で苦しんでいる患者さんもいます。

最近、高度機能病院を退院され、当院在宅患者となった方がいます。アルコール性肝硬変症で高アンモニア血症を合併している重症患者さん（72歳・男性）でした。ある日、その患者さん宅から至急往診してほしいとの電話がありました。急ぎ、訪問してみたところ、いわゆる突然のせん妄状態（幻覚・幻聴・妄想・暴言・暴力・介護拒否・精神障害など）になっていました。症状を一言で例えるなら「狂暴なライオン」と言っても過言ではないほどの仕草で、本人はもとより誰が家族であるかの区別さえつかないでいるのです。

私たち4名の医療スタッフは、いつもの慣れた手つきで、点滴静注・鎮静処理・高アンモニア血症治療などを行い、事なきを得たのでした。そして、奥さまに症状経過報告となったのですが、いつもは気丈な彼女の目にキラッと光るものがありました。その涙が全てを語っているようでした。

ご自宅の門構えからして、ご主人（患者さん）は、名門・名士であることが伺えます。世が世なら、奥さまの人生も、さぞきらびやかであったのかもしれません。

アルコール依存症とDNA遺伝との関係の研究は、すでになされています。そして、それは大切なことなのです。

もし、このようなアルコール依存症が、自己責任である後天的な因子だけでなく、先天的な体質因子が大部分なのであれば、早期の治療体系を構築することにより、悲惨な結果を少しでも減らすことができるでしょう。

全ての基礎研究は、生命の営みや人間の社会生活に、大いに役立ってこそ価値があるのです。

「お医者さんが来てくれる」
24時間・365日態勢で対応（松山市全域）
私たちは質の高い在宅医療・看護・介護を目指しています。

医師数 21名
（常勤6名、非常勤15名）
内科・外科専門医 18名
（国立がんセンター勤務歴有3名）
精神科専門医 2名
麻酔科専門医 1名
（ペインクリニック科）
末期がん治療（緩和ケア）相談室開設!

Hyper Blood Viscosity（高血液粘度群）を科学する
臨床生命科学（体質・病態学、栄養学）研究所開設
機能強化型・有床 在宅療養支援診療所
（医）東西会 千舟町クリニック
松山市千舟町6-4-9 Tel:089-933-3788
http://www.touzaikai.jp/